

文字の出現と使用のはじまりは、ヒトの心や行動にどのような影響をあたえ、ひいては、社会をどのように変えたのだろうか。

ヒトの複雑な脳の働き、すなわち認知のしくみの特徴づけられるのは、表象というひとかたまりの概念やイメージを操作することによって思考を組み立てている点であるといえる。ヒトは、自然や社会の事物や現象、それらの関係などを、脳のなかでカテゴリーに沿って切り分けて認識する。切り分けた事物には「ネコ」「背広」など、現象には「鳴く」「走る」「着る」など、関係には「父親」「同僚」「敵」などの名称を与え、タイプづけただけで脳に蓄積している。言語もまた、これらの表象を「語」として、それを一定の文法に沿って並べることによって成り立つ。ヒトの認知のしくみにおいて、表象は、思考と言語の基礎をなしているのである。

表象には、「二種類あることが知られている。一つは「イメージ表象」「アナログ表象」ともいう)とよばれるもので、画像的なイメージとしての表象である。私たちはネコの姿を頭のなかに思い描くことができるが、これが「ネコ」というアナログ表象である。もう一つは「命題表象」とよばれるもので、「背広は公的な場で着る衣服だ」というような、言葉や文字の情報にすることができるとは異なる。」「ネコ」と「食肉目ネコ科の小型動物」と言い表せば、命題表象となる。

イメージ表象と命題表象のもつ大きな違いは、ほかの人に伝達できるかどうか、すなわち個人を超えて共有したり複製したりできるかどうかという点にある。まず、イメージ表象は、他人に伝達することができない。ネコを一度も見たことがない人、どのように言葉尽くして説明しても、イヌやトラとはちがうネコの姿を正しく思い浮かべてもらうことは無理だ。今日のように写真や動画があれば別だが、そうしたものが古代以前の社会では、イメージ表象の伝達はきわめてむずかしかったであろう。これに対して、命題表象は、言語によって多くの人に等しく伝えることができる。古代以前の社会でも、それは同様だった。

表象という観点からみると、文字の意義は、第一に、表象を記号として目に見える形にして、多くの人に正しく伝達し、複製し、再生できることにある。第二に、たくさんの文字を複合して文章にすることによって、さらに複雑で大きな表象を作ったり、内容を整えたりできることにある。もちろん、文字化できる表象は命題表象に限られてはいるが、文字という発明によって、ヒトは、表象の伝達と操作を、それまでよりもはるかに大規模かつ自在にできるようになったといえるだろう。

そのことは、個人や社会にどのように影響を与えたのだろうか。これまでの人類学や考古学でも、組織原理がまた血縁やその觀念にもとづいている階層社会から、それとは独立した制度によって保たれる階層社会へと発展する(ケイ)に大きな関心が行われてきた。そして、後者のような社会が「国家」とよばれ、それが形成される過程が、古代史の最大のトピックとして議論の対象となってきた。

国家形成にかかわる議論はさまざまだが、考古学の佐々木憲一氏はそれらを整理したうえで、国家の本質とは「複数の共同体の秩序維持装置」だという。たくさん集まるために寄り集まれば、それらのあいだの利害を調整しながら、全体の生存と利益を追求していく機能が生み出される。こうした機能が、首長(リーダー)、国家より前の王にあたる存在)という個人やその人格ではなく、非人格的な装置にゆだねられた段階のものが、国家だということになる。このような装置としての国家をダイゲンする(注3)も重要な属性として、佐々木氏は官僚機構と成文法をあげる。成文法はもちろん、官僚機構もまた文字にもとづいて運用されるから、文字は、国家の出現を決定づける要素だといわなければならない。

このように、先史の社会が、現代につながる国家の社会へと変貌をとげる際に大きな役割を果たしたもので、文字はかねてから重視されてきた。ただしそれは、経済的、社会的な関係の制度として普遍化した意義を、もつばら評価したものといえる。これによって、広い範囲のたくさんの人びとからなる社会のまとまりを秩序づけることが可能になったという意義は、ヒトの社会の組織化を画期づけるものとして、たしかに重要だ。

だが、国家形成に文字が果たした役割として本質的に重要なのは、大量で複雑な命題表象を蓄積し、伝達するという機能だろう。文字によって、イメージ表象には期することのできない抽象的で論理的な思考の体系を永続的に保つことは、無文字の社会

にはなかった知の共有の形である。法典、教典、歴史、文芸、さらには数の体系、ドリュウ(注4)貨幣制度などは、一つの文字の体系のうえでたがいに関連をもった命題表象系ともいべき知のかたまりとして、社会に共有され、伝えられていく無形の資本ともいえる。

このように、文字に根ざした命題表象系は、その社会に属する個人々の脳の外側にたくわえられた、「脳外の脳」ともいべき情報システムと理解できる。文字の読み書きによって、個人々は、この「脳外の脳」から情報をえたり、ときにはそこに情報を加えたりしながら、社会とつながっている。私(注5)は、この本を書き終えることによって、「脳外の脳」に情報を加えている。みんなは、それを読むことによって、「脳外の脳」から情報をえている。つまり、個人々の脳と、その外側にある社会に共有された「脳外の脳」とのあいだで、文字という信号を用いた情報のインプットとアウトプットがきかんとおこなわれているのである。それを通じて個人のおこないが管理されたり、信仰や思想が作られたりすることによってまとまりが保たれているという社会のしくみこそを、国家とよぶべきだろう。

さらに文字は、このような社会と個人との関係だけでなく、社会と社会との関係にも、大きな変革をもたらした。話し言葉では通じない日本語と中国語も、漢字をみればある程度わかりあえる。また、リアルタイムでは発生するはたから消えてしまっただけにもならない話し言葉も、文字としてとどめられれば、あとから読解して意味を知ることができる。韓国語話ができるで済める私(注6)でも、ハンゲル文字のおかげで、後からゆつくりとではあるが、韓国の考古学者の研究成果をじゅうぶんにのみこむことができる。文字のもつこのような普遍性は、別の言葉を話す、遠く離れた社会どうしが複雑な情報や思考をやり取りし、共有する機会をひろげた。文字を通じて命題表象の多くの部分を共有することによって、制度、信仰、倫理、思想、文芸などについてのさまざまな知がたがいに伝達され、共有される頻度と密度とが(注7)ヤク的に高まっただろう。こうした現象は、たがいの社会の組織のありかたやその変化に大きな影響をあたえたにちがいない。国家とは、孤立して存在するものではなく、文字とともに広がったそのような知の共通基盤のうえに、いくつかが密接に関連しあって国家群を作ったり、そのうちから中心となる国家があらわれて世界システムを生み出したり、同じ宗教や信条で結びついたりして、複数で文明圏を形成することによって存立するものである。

以上に見てきたように、文字は、個人と社会とを、さらには社会と社会とを、同じ知の基盤のうえに関連づける働きをもっている。文字を介して、個人の脳は、社会や民族ごとに共有された「脳外の脳」と接続され、「脳外の脳」どうしもまた密接に結びついたということだ。文字によって、個人から社会へ、社会から世界へと、知の共有は拡大した。血の共有から知の共有への展開をヒト社会の進化と拡大の筋道と考えるなら、文字の使用開始によって、知の共有ははじめて地球規模のスケールをもつようになったといえる。その意味で、文字使用の開始はヒト社会のビッグバンをもたらしたといってもよい。(松木武彦「進化考古学の大冒険」による)

- (注) 1 カテゴリー——範疇。分類や判断の基礎となる枠組みのこと。
2 佐々木憲一——考古学者(一九六一)。
3 枢要——非常に大切であること。
4 ハンゲル文字——韓国語・朝鮮語の表記に用いられる音節文字。

問1 傍線部(イ)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤

- (イ) テイギ
- ① 俳優の見事なエンギ
 - ② ギカイを召集する
 - ③ ギムと権利
 - ④ ギシキをとり行う
 - ⑤ ペンギをはかる

- (ロ) ケイイ
- ① 年月がケイイカする
 - ② 円のハンケイを測る
 - ③ 国旗をケイイヨウする
 - ④ 取り引きのケイイヤクを結ぶ
 - ⑤ 王位をケイイヨウする

- (ハ) タイゲン
- ① 道路がジュウタイする
 - ② エタイの知れない相手
 - ③ 奨学金のタイヨを受ける
 - ④ 戦場からタイキヤクする
 - ⑤ タイダな生活を送る

- (ニ) ドリョウコウ
- ① 備品をコウニユウする
 - ② 敵にコウフクする
 - ③ 小説のゲンゴウを書く
 - ④ 記録をコウシンする
 - ⑤ 収支がキンコウする

- (ヘ) ヒヤク
- ① サイヤクがふりかかる
 - ② 重要なヤクシヨクに就く
 - ③ ヤクドウ感に満ちた踊り
 - ④ 資源をセツヤクする
 - ⑤ 若返りのミョウヤク

問3 傍線部B「先史の社会が、現代につながる国家の社会へと変貌をとげる際に大きな役割を果たしたものと、文字はかねてから重視されてきた」とあるが、国家の形成における「文字」の「役割」として、筆者が最も重要だと考えているのはどうか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

- ⑦

- ① 文字を使用した表衆の伝達と操作により統治者の力が強化されたことで、多くの集団のあいだの利害を調整しながら全体の生存と利益を追求していくことが可能になり、複数の共同体における秩序が維持できるようになったこと。
- ② 文字を使用することによって、官僚機構や成文法が整備されるなど経済的・社会的な種々の関係が制度として普遍化され、広い範囲のたくさんの人びとからなる社会のまとまりを秩序づけ組織化することが可能になったこと。
- ③ 文字の使用により、表衆を定着し大量に伝達したり表衆を複合させて高度な知を編成したりすることが可能になり、抽象的・論理的な思考として社会に共有された知の体系が広い範囲の人々を結びつけるようになったこと。
- ④ 文字を使用することで、無文字の社会にはなかったさまざまな知のあり方が生みだされたことにより、血縁や特定の個人の権威に基づいて集団間の利害を調整しつつ全体の生存と利益を追求する営みがはじめて可能になったこと。
- ⑤ 文字の使用により情報システムが発展を遂げてイメージ表衆の共有が可能になり、情報のやりとりを通じて個人のおこないが管理されたり、信仰や思想が作られることにより社会のまとまりが保たれたりするようになったこと。

問2 傍線部A「イメージ表衆と命題表衆」とあるが、その具体例として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

- ⑥

- ① 油絵や水彩画などの人間の手によって描かれた絵画は「イメージ表衆」に当たり、コンピューター・グラフィックスなどのデジタル技術によって作られた画像は「命題表衆」に当たる。
- ② 絵画や彫刻などの視覚芸術について論じている評論は「イメージ表衆」に当たり、倫理や哲学などにかかわる観念的な問題について思索を展開している評論は「命題表衆」に当たる。
- ③ 桜の美しさを感覚的な言葉で描写するような小説の中の文章は「イメージ表衆」に当たり、桜を「バラ科サクラ属の落葉木」と記述するような植物学の専門書の中の文章は「命題表衆」に当たる。
- ④ 人魚や竜など人によりイメージが異なり得る想像上の生き物の姿は「イメージ表衆」に当たり、サルやウサギなどだれもが同じように思い浮かべる実在の生き物の姿は「命題表衆」に当たる。
- ⑤ 幼時の記憶として目に焼きついている海の青さや雲の白さは「イメージ表衆」に当たり、「私は赤ん坊のころ夜泣きがひどかったらしい」といった伝聞による自己の情報は「命題表衆」に当たる。

問4 傍線部C「脳外の脳」ともいうべき情報システム」とあるが、それはどのようなものか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

- ⑧

- ① 一人の人間の脳には収めきれない大量で複雑な情報を文字として記録し、必要に応じて取り出し利用できるようにしている。覚え書きなど自分だけのための記憶システムのこと。
- ② 文字という信号を用いて、個々の人間同士のあいだで情報のインプットとアウトプットを可能にする、リアルタイムでの情報交換のための通信システムのこと。
- ③ 話し言葉だけでは伝えられないイメージ表衆を、文字を用いて命題表衆化することで伝達可能なものにする、社会に共有された情報交換システムのこと。
- ④ 個々の人間の体験や思考と接続しつつ、それらの集積として個を超えた社会的共有財となっている、文字によって構築された命題表衆の複合体のこと。
- ⑤ 個々の人の脳の外側に共同体の知恵としてたくわえられ、一個人には判断のつかない事柄について考え決定する際の助けとなる、抽象的で論理的な思考の体系のこと。

問5 傍線部D「脳外の脳」どうしもまた密接に結びついた」とあるが、どういふことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 9。

- ① それまで互いに孤立して存在していた国家が、同じ言語を用いるようになって密接に関連しあう国家群を形成し、さらにその中から特定の国家が中心的存在となって、広い地域にわたる一つの文明圏が形成されていったこと。
- ② 個人の脳の中に蓄積された知識や情報が、文字を介して脳の外部に記録され伝達可能なものとなったことにより、共有された知がそれぞれの社会や民族の中で関連づけられ、密接な結びつきをもつようになったこと。
- ③ 文字を用いて時間的・空間的な制約を超え情報や思考を伝達できるようになったことで、言語的にも地理的にも隔たった複数の文化の間において、お互いの文字の習得や共通の文字の使用による知の共有が進んだこと。
- ④ すぐれた頭脳を持つ人間が自らの属する社会のみにとどまらず外部の社会へと活動範囲を広げていき、個人から社会へ、社会から世界へと知の共有が拡大して、社会や民族の枠を超えた知のネットワークが形成されたこと。
- ⑤ 文字の発明をきっかけに進化をはじめた、人間の脳の働きを代行するさまざまな情報処理装置が、現代に至ってコンピュータを軸とする高度情報システムにまで発展し、知の共有が地球規模のスケールをもつようになったこと。

問6 この文章の特徴に関する説明として適当でないものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。ただし、解答の順序は問わない。解答番号は 10・11。

- ① 波線部④などで用いられている「ヒト」という片仮名表記は、人間の社会のあり方を原初的な段階にまでさかのぼって論じるために、人間をいったん他の生物と比較しうる次元に置いてとらえる意図を反映したものである。
- ② 波線部⑤などで用いられている「ヒト」という片仮名表記は、イメージ表象しかもたなかった時代の人類を「ヒト」、命題表象をもつようになって以後の人類を「人」と書き分けることで、概念の対比を明確にしようとしたものである。
- ③ 波線部⑥で「私は……みなさんは……」という例を挙げたのは、そこまで論じてきた人類の歴史が現代の私たちの日常にまで連なるものであることに気づかせることで、実感的な理解をうながすためである。
- ④ 波線部⑦で「私は……みなさんは……」という例を挙げたのは、本の筆者が情報を提供し読者がそれを受けるといふ関係を改めて思い起こさせることにより、自らの論を権威づけ読者に受け入れさせるためである。
- ⑤ この文章は、一見自明なものと見える「文字」の存在が文明の発展の上で果たした大きな役割について、身近な具体例なども交えつつ、従来の見方にとどまらない新たな視点から筆者の考えを述べている。
- ⑥ この文章は、第一段落で全文の話題を提示した上で、まず論の前提となる事柄の説明を行い、次にそれが生み出した成果や事象について段階を追って論じ、最終段落において冒頭の問題提起にこたえる形で結論を示している。

国語確認テスト解答用紙 二学期第一回 長月十二日 8:10~20分間

解答番号	解答欄	配点	所感など
1		2	
2		2	
3		2	
4		2	
5		2	
6		8	
7		8	
8		8	
9		8	
10		4	
11		4	
合計		50	

順不同

組 _____ 番 氏名 _____

●出典
『現代文』『現代文』『現代文』...

●本文解説
本文の論旨展開は左の通りである。①②③で各形式段落を示す。

文字の出現と使用は、ヒトの心や行動、社会をどうにか変えようとする...

社会と個人との関係だけでなく、社会と社会との関係にも、文字は大きな変革を...

●設問解説
問1 文脈に適合する漢字を当てはめる設問。

問2 具体例による比較対照説明。①②③の理解を問うもの。正解は⑤。

●作者・作品紹介
松本武彦は一九二二年生まれ。大阪大学大学院文学研究科博士課程修了...

① 文字の使用はヒトや社会をどう変えようとするか、という問いから始まる...

② 個人と社会との関係だけでなく、社会と社会との関係にも、文字は大きな変革を...

③ 個人と社会との関係だけでなく、社会と社会との関係にも、文字は大きな変革を...

④ 個人と社会との関係だけでなく、社会と社会との関係にも、文字は大きな変革を...

⑤ 個人と社会との関係だけでなく、社会と社会との関係にも、文字は大きな変革を...

⑥ 個人と社会との関係だけでなく、社会と社会との関係にも、文字は大きな変革を...

⑦ 個人と社会との関係だけでなく、社会と社会との関係にも、文字は大きな変革を...

⑧ 個人と社会との関係だけでなく、社会と社会との関係にも、文字は大きな変革を...

⑨ 個人と社会との関係だけでなく、社会と社会との関係にも、文字は大きな変革を...

⑩ 個人と社会との関係だけでなく、社会と社会との関係にも、文字は大きな変革を...

⑪ 個人と社会との関係だけでなく、社会と社会との関係にも、文字は大きな変革を...

⑫ 個人と社会との関係だけでなく、社会と社会との関係にも、文字は大きな変革を...

⑬ 個人と社会との関係だけでなく、社会と社会との関係にも、文字は大きな変革を...

⑭ 個人と社会との関係だけでなく、社会と社会との関係にも、文字は大きな変革を...

⑮ 個人と社会との関係だけでなく、社会と社会との関係にも、文字は大きな変革を...

⑯ 個人と社会との関係だけでなく、社会と社会との関係にも、文字は大きな変革を...

⑰ 個人と社会との関係だけでなく、社会と社会との関係にも、文字は大きな変革を...

⑱ 個人と社会との関係だけでなく、社会と社会との関係にも、文字は大きな変革を...

⑲ 個人と社会との関係だけでなく、社会と社会との関係にも、文字は大きな変革を...

⑳ 個人と社会との関係だけでなく、社会と社会との関係にも、文字は大きな変革を...

㉑ 個人と社会との関係だけでなく、社会と社会との関係にも、文字は大きな変革を...

㉒ 個人と社会との関係だけでなく、社会と社会との関係にも、文字は大きな変革を...

㉓ 個人と社会との関係だけでなく、社会と社会との関係にも、文字は大きな変革を...

㉔ 個人と社会との関係だけでなく、社会と社会との関係にも、文字は大きな変革を...

㉕ 個人と社会との関係だけでなく、社会と社会との関係にも、文字は大きな変革を...

㉖ 個人と社会との関係だけでなく、社会と社会との関係にも、文字は大きな変革を...

㉗ 個人と社会との関係だけでなく、社会と社会との関係にも、文字は大きな変革を...

㉘ 個人と社会との関係だけでなく、社会と社会との関係にも、文字は大きな変革を...

㉙ 個人と社会との関係だけでなく、社会と社会との関係にも、文字は大きな変革を...

㉚ 個人と社会との関係だけでなく、社会と社会との関係にも、文字は大きな変革を...

㉛ 個人と社会との関係だけでなく、社会と社会との関係にも、文字は大きな変革を...

㉜ 個人と社会との関係だけでなく、社会と社会との関係にも、文字は大きな変革を...

㉝ 個人と社会との関係だけでなく、社会と社会との関係にも、文字は大きな変革を...

㉞ 個人と社会との関係だけでなく、社会と社会との関係にも、文字は大きな変革を...

㉟ 個人と社会との関係だけでなく、社会と社会との関係にも、文字は大きな変革を...

設問別解答状況

資料の見方

各科目の設問ごとの正解率、誤答パターン、および成績層別の正解率を一覧にしています。間違いやすい選択肢や成績層別に差のついた選択肢が読み取れます。

1 正解率

設問単位で正解率を表しています。

$$\text{正解率} = \frac{\text{該当設問の正解者数}}{\text{該当大問の受験者数}} \times 100$$

ただし、完解答問については完解の正解率とし、完解答問群のうちの最後の設問欄に () で表示しています。

2 誤答パターン

誤答率が最も高かったものから3つを設問ごとに掲載しています。

$$\text{誤答率} = \frac{\text{該当設問を誤答した受験者数}}{\text{該当大問の受験者数}} \times 100$$

3 科目成績層別正解率

今回の受験生を各科目ごとの偏差値より、A層(偏差値60以上)からE層(偏差値45未満)までの5つの成績層に分けて、各設問の正解率を表示しています。 *これは本当か? いろいろ判断しよう!!*

大問番号	設問番号	正解番号	正解率 (%)	誤答パターン (誤答率%)					科目成績層別正解率 (%)					
				0	20	40	60	80	100	A 以上	B 60~55	C 55~50	D 50~45	E 未満
1	1	3	87.5	2-	(8.7)	5-	(3.0)	4-	(2.3)	97.0	94.2	91.3	87.4	77.4
	2	5	84.5	2-	(8.6)	5-	(4.6)	3-	(3.0)	95.3	92.5	89.8	85.6	77.1
	3	2	71.1	3-	(14.7)	5-	(5.7)	4-	(4.5)	93.2	84.7	76.9	67.4	52.0
	4	5	61.6	4-	(11.9)	3-	(11.2)	2-	(8.7)	74.0	67.7	64.7	60.9	50.9
	5	3	92.9	5-	(2.8)	4-	(1.9)	2-	(1.2)	99.3	98.4	97.2	94.6	83.5
	6	3	40.1	3-	(43.2)	2-	(11.0)	4-	(4.1)	68.5	51.9	42.8	34.6	21.3
	7	5	40.2	2-	(39.7)	1-	(7.9)	5-	(5.3)	68.5	50.6	41.7	34.0	22.7
	8	3	43.1	3-	(26.4)	2-	(18.1)	5-	(8.6)	79.2	59.0	45.5	34.1	20.1
	9	4	31.8	2-	(47.9)	4-	(9.8)	1-	(7.6)	57.2	40.0	32.0	25.1	16.3
	10	2	53.6	1-	(29.6)	3-	(13.7)	5-	(1.9)	66.2	57.7	54.2	51.1	45.8
	11	4	33.2	5-	(25.1)	6-	(21.5)	3-	(17.1)	48.3	36.9	32.1	29.1	26.3

差の大きい問題は、30%以下、類似の問題、30%以下が正解率を示す!!

※正解番号の前についている印は、●は完解、○は順不同を示しています。ここで判断しよう!!

国語

科目	大問	出題ジャンル	満点	受験者数	現役	既卒	平均点	現役	既卒	標準偏差	得点率 (%)
国語	1	現代文・評論	50	360,297	323,608	36,689	23.3	23.2	29.3	10.5	0
	2	現代文・小説	50	360,297	323,608	36,689	27.8	27.8	31.8	10.6	0
	3	古文	50	360,297	323,608	36,689	22.4	21.8	28.1	12.3	0
	4	漢文	50	297,208	263,224	33,984	25.7	25.0	30.9	11.5	0
	5	現代文・評論	50	63,089	60,384	2,705	18.7	18.5	22.4	10.0	0
TOTAL			200	360,297	323,608	36,689	98.9	98.6	119.5	32.0	0

問題番号	正解番号	正解肢の配点	正解率 (%)
1	3	2	87.5
2	5	2	84.5
3	2	2	71.1
4	5	2	61.6
5	3	2	92.9
6	3	2	40.1
7	5	2	40.2
8	3	2	43.1
9	4	2	31.8
10	2	2	53.6
11	4	2	33.2

科目	大問	出題ジャンル	成績層	全体	A層 60以上	B層 60~55	C層 55~50	D層 50~45	E層 45未満
国語	1	現代文・評論	偏差値	360,297	62,612	52,916	63,999	64,450	116,320
			受験者数	297,208	35,6	28,7	24,8	21,3	16,0

2019年 センター試験 国語 約50% 受験者数

データを活用し、より正確な実力把握をしよう!!

自分の目指す大学の偏差値層 (≒自分のライバル) はどれくらいの正答率なのかをチェックしよう